

オリパラピック

障害者と共に競技するスポーツの世界大会

2001 in Japan

オリパラピック記念マーク



大会主旨

障害という境界を取り除き、障害者と健常者がお互いに協力し合いながら、技術と精神の向上を目指し、真剣に競いあう場を設けることによって、友情の和を深める。

シンボルマーク

このマークで障害者が手を横に広げているのは平等という意味で、健常者が手を上に上げているのは向上という意味を表しています。そして、後ろの炎は障害者と健常者との友情が燃え上がっているという意味です。

二重五輪

オリンピックと言えば五輪のマークですが、このオリパラピックでは、それを二つずつの円で表現しました。これは、オリンピックの精神を受け継ぐだけでなく、障害者と健常者が同じ舞台上で競いあうこと、またそのような機会をもつと世界に広めていくことを意味します。

オリパラピック

障害者と共に競技するスポーツの世界大会

聖火ランナー

オリンピックでは必ず行われている聖火ランナー。このオリパラピックでも、聖火ランナーを最初に行おうと思います。昨年行われたアトランタオリンピックでは、体に障害を持ったモハメッド=アリが聖火ランナーとして、活躍しました。

世の中には、数多く足の不自由な人、目の不自由な人などさまざまな障害をもった人連がいます。その人達も聖火ランナーとして走りたいと思っている人も多いはず。そこで下のイラストで表わしている様に、各国の障害者と健常者とが交互に走ることによってお互いを1人のランナーとして認めることができます。1人で走るのが困難な人は、他の人と一緒に手を取り合えばみんなが参加できます。この聖火リレーには一つの火を守りながら受け渡していくことによってお互いの友情が深まっていくという願いがこめられています。



オリパラピック

障害者と共に競技するスポーツの世界大会

競技例 1

レースボート (Eight) 8人漕ぎ

健全者 (5人) 視覚障害者 (2人) 車いす (2人)



競技例 2

バスケットボール

健全者 (6人) 車いす (6人)

車いすの人が、ハーフコートまで運んで、そこから展開する。
オフェンスの時に、相手のコートに行くまでは、ボールカット
することはできない。



オリパラピック

障害者と共に競技するスポーツの世界大会

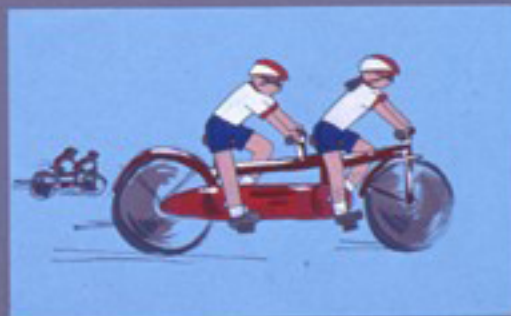
競技例 3

友情トライアスロン

健常者（1人） 視覚障害者（1人） 100チームで競う。

スタートして最初の2kmをカヌーで競い、第二地点から、自転車に乗り、二人で8km先のゴールを目指す競技です。

第二地点で自転車に乗り換え、健常者が前に乗り方向転換をして、後ろで障害者が健常者のかけ声により、方向や速さを合わせる。



これのように、障害者と健常者が協力し、助け合いながらできる競技はまだ、いくらかでも考えられると思います。4年に1度開かれる開催国で新種目を必ず1つ提案するようにすれば、どの国も障害者と健常者の在り方を現在の社会においても、もっと真剣に考えられるのではないのでしょうか。

これからの障害者と健常者の在り方

現在では、障害者と健常者とが接する機会が少ないと思います。だから、このオリパラピックを開催することによって、もっとお互いの距離が短くなること、またテレビの前で見ている人達にも、助けあわなければならないという気持ちが伝わることを願いこのオリパラピックを提案しました。